

第3回 比喩

練習10 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

雨が降れば傘^{かさ}をさす。傘がなければ風呂敷^{ふろしき}でもかぶる。それとなればぬれるしか仕方がない。

雨の日に傘がないのは、天気^{てんき}のときに油断^{ゆだん}して、その用意^{ようい}をしなかったからだ。雨にぬれて、はじめて傘の必要を知る。そして次の雨にはぬれないように考える。雨があがれば、何をおいても傘の用意^{ようい}をしようと決意^{けつい}する。これもやはり、人生の一つの教えである。

わかりきったことながら、世の中にはそして人生には、晴れの日もあれば雨の日もある。好調^{こうちょう}の時もあれば、不調^{ふちょう}の時もある。にもかかわらず、晴れの日が少しつづくと、つい雨の日を忘れがちになる。好調^{こうちょう}の波がつづくと、ついゆきすぎる。油断^{ゆだん}する。これも、人間の一つの姿^{すがた}であろうか。

(松下幸之助『道をひらく』PHP 研究所)

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 雨の日に傘^{かさ}を持っていないのは、つい油断^{ゆだん}してしまうからである。
- 2 人生がうまく行っている時は、悪い時に備える心を忘れがちだ。
- 3 人は、雨があがると、いつもつい傘をどこかに忘れて来てしまう。
- 4 人生が好調^{こうちょう}な時は晴れの日が続くので、傘を準備しておく必要はない。

練習11 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

足が速い人は、生まれつき速い。遅い人は、生まれながらにして遅い。特に短距離走^{たんきょりそう}はポテンシャルの勝負――。

そう思っている方が多いでしょうし、私もつい数年前まではそう思っていました。そして、ある面ではやはりその通りなのです。生まれ持った骨格^{こつかく}や腿^{けん}、筋肉^{きんにく}などの質によって、足の速さはかなりの部分まで決まってしまう。

車と同じで、エンジンの性能を超えた走りはできません。

ただし、多くの方は、性能を限界まで引き出していないのです。また、エンジンの性能がアップしなくても、タイヤ^はを履き替^かえたり、運転テクニックを上達させたりと、スピードをアップさせる方法はほかにいくらでもあるのです。

(為末大『日本人の足を速くする』新潮社)

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 車の速さは、エンジンの性能によって決まる。
- 2 足が速いか遅いかは、生まれながらにして決まっている。
- 3 車のスピードをアップさせる方法は、いろいろある。
- 4 足が遅いと思っている人も、工夫すればもっと速くなれる。

練習 12 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

なんかの本で読んだ話。ある山の麓^{ふもと}(注1)で、おじいさんと孫が、山鳩^{やまばと}(注2)の雛^{ひな}(注3)を育てていた。その山の反対側に、別のおじいさんと孫がいて、こっちは鷹^{たか}(注4)の雛を育てていた。それぞれの雛が成長して、飛べるようになったんで、ある日、空に放してやった。そしたら、鷹が山鳩を食べてしまった。山のこっち側では、山鳩が喰^くわれたって泣いた。向こう側では、鷹がはじめて餌^{えさ}を獲^とったって喜んだ。ひとつの現象なのに、山のこっちと向こうでは、まるっきり正反対のことが起きたってことになる。

妙な話^{みょう}だけど、人生の喜びや悲しみは、根本^{こんぽんてき}的にそういうものだ。この世で起きることには、本来、何の色も着いていない。

そこに、喜びだの悲しみだのの色を着けるのは人間だ。

(北野武『全思考』幻冬舎)

(注1) 麓^{ふもと}：山の下の部分

(注2) 山鳩^{やまばと}：山に住む鳥

(注3) 雛^{ひな}：鳥の子供

(注4) 鷹^{たか}：肉食の鳥で、山鳩より大きい

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 住んでいるところが変われば、同じ現象でも違って見えるものだ。
- 2 人生にうれしいことも悲しいこともあるのは、しかたがないことだ。
- 3 いくら人が喜んだり悲しんだりしても、起きたことはどうすることもできない。
- 4 世の中で起きる物事は、立場によって見え方や意味が変わってくる。